

議案第3号

鳥取県文化財保護審議会への諮問について

鳥取県文化財保護審議会に対する諮問案を別紙のとおり提出します。

平成24年10月19日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

諮 問

鳥取県文化財保護審議会

下記の事項について、鳥取県文化財保護条例第44条の規定により意見を求めます。

平成24年10月19日

鳥取県教育委員会

委員長 笠見 幸子

記

- 1 鳥取県文化財保護条例第4条第1項の規定に基づく下記の保護文化財の指定について

保護文化財 かたやまようこく きくじどう かちょうず 片山楊谷「菊慈童・花鳥図」(鳥取市)

鳥取ゆかりの絵師として江戸時代後期に活躍した、片山楊谷(1760～1801)の作品。

菊慈童を中幅に、両脇に菊と小鳥を描く花鳥図をそえる三幅対。菊慈童は、不老長寿のシンボルとして人気のある画題であり、本図は楊谷作の菊慈童図のなかでもとりわけ、髪の手や、顔、そして衣服の文様にいたるまで精緻な描写が徹底されている。

左右の花鳥図も、菊の花弁の表現の細やかさや、花の形、角度の多様性が魅力的である。

小鳥の身体には細い毛描きが、その足には微細な盛り上げ細工が施されている。

楊谷が描いた菊慈童図の中でも傑作である。



花鳥図(左)

菊慈童図

花鳥図(右)

保護文化財 かたやまようこく たけとらずびょうぶ 片山楊谷「竹虎図屏風」(鳥取市)

鳥取ゆかりの絵師として江戸時代後期に活躍した、片山楊谷(1760~1801)の作品。勢いよくはねる虎の体毛表現は、驚嘆に値する。鋭い線で描かれた一本、一本の毛の長さが非常に長いのが特徴であり、その剛毛の集積で虎の体軀がみごとに形作られている。

右隻では竹が、左隻では虎の尾が、画面の外に一度出て、再び戻っており、スケールの大きさと躍動感が感じられる。楊谷はたくさんの虎の絵を描くが、そのなかに本図に匹敵するような剛毛に包まれた猛々しい虎の作例は、未だ見出されていない。そればかりでなく、江戸時代後期の画壇を見渡しても、類例のないユニークな虎の絵として注目される。

片山楊谷「竹虎図屏風」(右隻)



片山楊谷「竹虎図屏風」(左隻)



保護文化財 かたやまようこく りゅうこずびょうぶ 片山楊谷「龍虎図屏風」(鳥取市)

鳥取ゆかりの絵師として江戸時代後期に活躍した、片山楊谷(1760~1801)の作品。楊谷作例のなかでは珍しい、銀箔を全面に押した総銀地屏風である。

銀箔のうえに薄く墨が掃かれているせいか、銀の黒変がさほど認められない。

この虎では、毛描きは墨の濃淡だけで行なわれている。白い筋のように見えている部分は淡墨で引かれた線と線の間のおずかな隙間である。むろん、その隙間を計算に入れて、筆がおろされていることになる。

しなやかな虎の身体の動きが、左隻の渦巻く雲烟のなかの龍と呼応する。

楊谷晩年の傑作である。

片山楊谷「龍虎図屏風」(右隻)



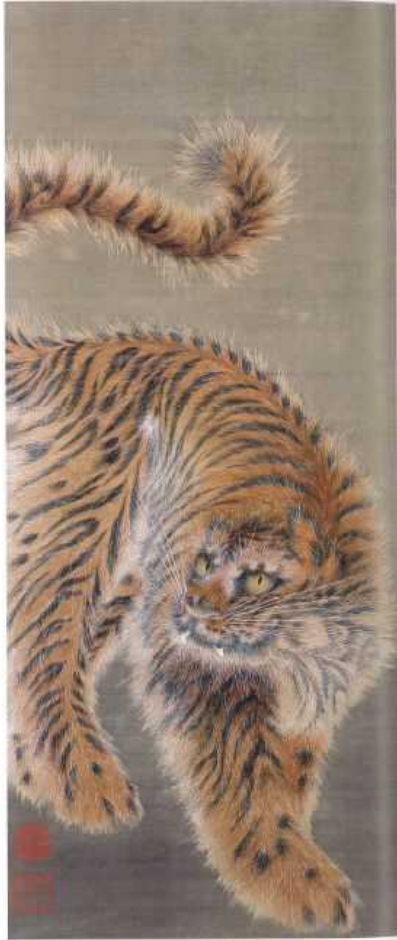
片山楊谷「龍虎図屏風」(左隻)



参 考

片山 楊谷 猛虎図

(昭和 51 年 8 月 3 日指定)



片山 楊谷 菊慈童・花鳥図



片山 楊谷 竹虎図屏風



片山 楊谷 龍虎図屏風

